

第 3 次栗原市総合計画策定に係る事業報告

第 3 次総合計画策定にかかる市長インタビュー概要

基本的な考え方

まちづくりの理念

「今いる市民が定住したいと感じられるまちづくり」が基本

- 人口増加は現実的に難しく、今住んでいる市民が「笑顔で暮らせる」「質の高い暮らし」を実現することを重視
- 人口減少と財政規模の縮小を踏まえ、取捨選択と持続可能性を追求

総合計画の継続性

- 第一次総合計画策定時の担当職員として、合併時からの 5 つの柱を基本的に継続
- 第二次総合計画までの将来像は「まだ途中」との認識
- より現実味のある具体的な政策を盛り込む方針

重点施策

1. 都市のコンパクト化（最重要課題）

- くりこま高原駅を中心とした市街地形成
 - ・旧町村の市街地が分散している現状を改善
 - ・面積が広すぎるため、インフラ整備の効率化が必要

2. 雇用の創出

- 産業用地整備
 - ・交通の要所に産業用地を整備中
 - ・製造業だけでなく多様な企業誘致を目指す
 - ・南海トラフ地震対策として東海方面の企業誘致に期待
- 起業支援
 - ・IT 系など個人レベルの創業支援制度を準備
 - ・今後さらに充実させたい意向

3. 子育て支援の継続

- ・出生数は減少しているが、財政が厳しい中でも子育て政策は継続する方針
- ・高校生からも「栗原は子育て策が素晴らしい」と評価されるほど浸透

4. 医療体制の改革

- 病院事業改革の推進
 - ・人口が 2 万人減少しても市立病院数は維持している現状
 - ・市民アンケートで満足度が低い結果を受け、改革が必要

- ・病院の役割分担（大崎市が高度医療、栗原市が2次医療）の周知が課題

5. 教育の充実

- 県立高校のレベルアップ
 - ・高校進学時に市外へ出る子どもが多い
 - ・大学進学を考える家庭が市外の偏差値の高い高校を選ぶ傾向
 - ・市外に移った子どもも、将来戻ってきてもらいたい

6. 観光振興

- 世界ジオパーク認定を目指す
 - ・現在は日本ジオパーク認定済み
 - ・世界レベルになれば外国人観光客のインバウンド効果に期待
- 広域連携
 - ・「栗登一平」（栗原市・登米市・一関市・平泉町）での観光連携
 - ・世界遺産・平泉を生かしたツアーコース開発
 - ・宿泊は各市町で分担、栗原市では温泉利用を期待

7. デジタル化の推進

- 行政サービスのDX化
 - ・マイナンバーカードを活用したタクシーチケット
 - ・総合支所の窓口業務をスマホで完結できるようにしたい
- 農業のスマート化
 - ・デジタル技術の導入を進めるが、導入経費が課題

8. コミュニティづくり

- 「近所助け愛事業交付金」の創設
 - ・自治会単位の活動費助成を約20年間継続
 - ・昨年から「班」レベルの小さな単位への助成も開始
- 「昔ながらの田舎暮らし」の復活
 - ・隣近所が助け合い、笑顔で会話できる関係性を重視
 - ・災害時に「大丈夫？」と声を掛け合える関係づくり
 - ・市長自身の体験（隣のおばあさんが野菜を置いていく）を理想とする
- 行政区再編の検討
 - ・これまでは地域の考え方を尊重してきたが、今後は市の考え方も示していく

市長が目指すまちの姿

「笑顔が生まれるまち」

- 隣近所が助け合い、笑顔で会話できる「昔ながらの田舎暮らし」
- その中にDXなどの新しい技術をうまく取り入れた「新しい田舎暮らし」の実現

第3次栗原市総合計画策定に係る事業報告

第2回まちづくり若者ワークショップ 実施

1 開催概要

第2回 ～未来のくりはらは、どんなまち～

開催日時： 令和7年12月 7日(日) 午前10時～午後0時

開催場所：市役所 205・206 会議室

参加者：市内高校生10名、

ファシリテーター（ランドブレイン㈱）2名、企画部職員3名

2 開催内容

(1)ワークショップ

①各グループで第1回のワークの成果を振り返り、「良いところ・直したいところ」や「取り組みアイデア」に追加や補足を行いました。

②将来のまちづくりの重要事項を、3つ選定

- ・1人3票によるシール投票※を行い、将来のまちづくりを進める上で重要だと思う内容を選定しました。

※シールを使った投票を行い、優先順位を決定する手法。



③ワーク2（未来の“くりはら”はどんなまち？）

- ・ワーク1によって選び出した、まちづくりの重要分野による取り組みによって、実現したい将来のまちのすがた（プロジェクト名）を考えました。



④ワークの成果発表

- ・ワーキングで整理した将来のまちのすがた（プロジェクト名）を発表してもらいました。



A グループ

プロジェクト名：Let's go enjoy! 毎日ねじってふくよかに
Wel米（ウエルコメ）なまち
大事にしたい分野：観光、イベント、お店

B グループ

プロジェクト名：心を1つに、一心に、栗原の魅力を高め 理想のまちへ
大事にしたい分野：町の課題、自然、おすすめスポット

第3回 まちづくり若者ワークショップ実施

1 開催概要

「第3回 ～意見・提案をまとめよう～」

開催日時：令和7年12月21日(日) 午前10時～午後0時

開催場所：市役所 205・206 会議室

参加者：市内高校生6名

ファシリテーター（ランドブレイン(株)）2名、企画部職員3名

※一迫商業高校生徒は12月19日(金)に、事前実施

2 開催内容

①ワーク1「意見・アイデアの追加」

各グループで第2回のワークの成果を振り返り、意見やアイデアの追加や補足を行いました。



②ワーク2「できること」の役割分担

大事にしたい分野と、「将来のまちの姿」実現のために、地域や自分自身が「できること」を中心に「誰が何を行うか」を考えました。



③意見・提案のまとめ、成果発表

これまで話し合ってきた成果をもとに、実現したい「将来のまちの姿」と大事にしたい「まちづくり分野」、そのための具体的な取り組みについて、考えました。

グループごとに、将来のまちのすがた（プロジェクト名）と、まちづくりへの取り組みを発表してもらいました。

A グループ

プロジェクト名 『Let's go enjoy!! ~毎日、ねじって、ふくよかに~ well^{こめ}米な町』
大事にしたいまちづくり分野 『観光』 『イベント』 『お店』



B グループ

プロジェクト名 『心を一つに、一心に、栗原の魅力を高め、理想のまちへ』

大事にしたいまちづくり分野 『まちの課題』 『自然』

『おすすめスポット』



④講評

栗原市総合計画審議会の会長を務める、宮城大学大学院事業構想学研究科の中田千彦教授より、発表への講評をいただきました。



第3次栗原市総合計画策定に係る事業報告

栗原市総合計画シンポジウム「みんなでつくる くりはらの未来」を開催

令和8年2月22日（日）、イオンスーパーセンター栗原志波姫店イベントスペースにおいて、栗原市総合計画シンポジウム「みんなでつくる くりはらの未来」を開催しました。

本シンポジウムは、令和9年度からスタートする第3次栗原市総合計画の策定に向けて、市民の皆さまと共に栗原の未来を考え、総合計画を「自分ごと」として認識していただくことを目的に実施したものです。当日は多くの市民にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。



第1部：市民アンケート報告・若者ワークショップ成果発表

市民アンケート結果から見える栗原の現状

市民アンケート結果の報告では、市民の現状評価と未来への願いが共有されました。

主な調査結果

- ・市外で進学・就職を選んだ理由として「愛着はあるが、出ていかざるを得ない」という声が多数
- ・進路先は大崎市（14.5%）、仙台市（11.9%）が上位
- ・市内に残る人は50.3%、市外へ出る人は40.2%
- ・理想の子どもの数と実際に持てる子どもの数に差がある理由として、経済的な不安が挙げられる

アンケートからは「『安心』を土台に、未来へ」というメッセージが浮かび上がり、市民の皆さまから寄せられた「現状への評価」と「未来への願い」を総合計画に反映し、栗原市の将来像と施策の具体化につなげていくことが確認されました。

高校生が描く栗原の未来

市内 3 高校（一迫商業高校、迫桜高校、岩ヶ崎高校）の生徒 7 名が、若者ワークショップの成果を発表しました。

A グループ（鈴木愛さん、川村愛さん、佐々木那智さん）

テーマ『Let's go enjoy! 毎日ねじってふくよかに Wel 米（ウエルコメ）なまち』

B グループ（鹿野美幸姫さん、鈴木一心さん、菅原優斗さん、千葉望陽さん）

テーマ『心を 1 つに、一心に、栗原の魅力を高め、理想のまちへ』



高校生たちは、若者の視点から栗原の課題と可能性について、具体的な提案を行いました。

第 2 部：パネルディスカッション

宮城大学教授で栗原市総合計画審議会会長の中田千彦氏をファシリテーターに迎え、地域で活躍する 3 名のパネリストによるディスカッションが行われました。

パネリスト

佐々木加代子氏（高清水地区コミュニティ推進協議会）

砂金侑弥氏（栗原青年会議所）

佐々木智氏（新みやぎ農業協同組合栗っこ青年部）



ディスカッションのテーマ

今後 10 年間のまちづくりを見据えた感想

各分野での人口減少・若者流出に伴う課題とその対応

これからのまちづくりで市民・事業者・行政が果たすべき役割

会場からは「くりこま高原駅周辺の今後の開発について」「高齢者ばかりで共助が成り立たなくなっている」など、切実な質問が寄せられ、パネリストからは各分野の実情を踏まえた具体的な意見が交わされました。

市長講評

市長からは、「総合計画は、まちづくりの最上位計画であり、市政運営の羅針盤となるもの。計画の策定にあたって最も大切なのは、実際にこのまちで暮らし、活動されている皆さまの『声』です」との言葉があり、市民の皆さまと共に手を取り合い、次世代へつなぐ「夢と希望と笑顔に満ちた計画」にしていきたいとの決意が述べられました。



第3次栗原市総合計画策定のための

まちづくり 若者ワークショップ

【若者が描く栗原の未来】



はじめに

～若者まちづくりワークショップについて～

【開催趣旨】

☆ 栗原市では、まちづくりを計画的に進めるために、平成29年3月に「第2次栗原市総合計画」(※)を策定しました。この計画は、平成29年度から令和8年度までの10年間を期間としており、このたび、計画期間が経過することから、新たな10年間(令和9年度から令和18年度まで)に向けた計画(「第3次栗原市総合計画」)づくりを行っています。

(※) 総合計画とは・・・栗原市の全ての計画の最上位に位置付けられ、将来のまちのあるべき姿(将来像)を掲げ、長期的な視点で、まちづくりに必要な分野ごとの事業を進めていくための計画です。

☆ この計画をつくるうえで、行政(栗原市)だけでなく、市民のみなさんをはじめ、様々な方々の声をいただいていく必要があります。そこで、これを機会に、**これからの栗原市を担う若者世代の栗原市の未来のまちづくりに対する思いや夢についてお話をいただき、「第3次栗原市総合計画」づくりに活かしていくための「まちづくり若者ワークショップ」を開催することとしました。**

【開催経過】

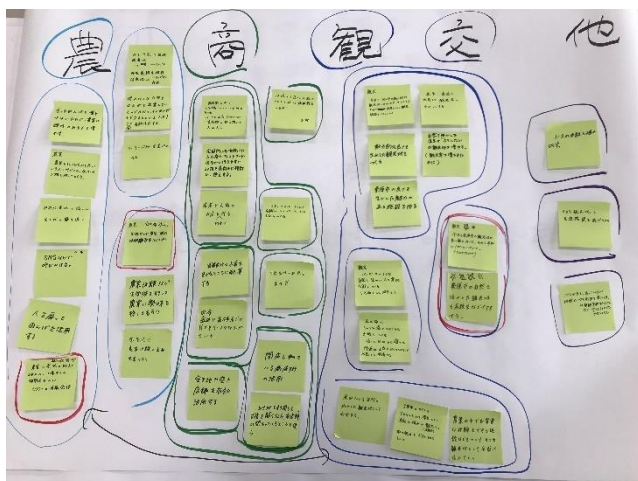
開催	テーマ	会場
第1回 令和7年 11月16日(日)	“くりはら”の「いいね」さがし！ ☆ まちのおすすめスポット、まちの自慢 ☆ こんなところは直した方が良くと思うこと を考えてみよう	市役所 205・206 会議室
第2回 12月7日(日)	未来の“くりはら”はどんなまち？ ☆ 将来のまち(栗原市)がどうなったらいいのか考え、「ことば」に表してみよう ☆ そのためには、何をすべき？自分が市長さんだったら何をする？	
第3回 12月21日(日)	意見・提案をまとめよう ☆ これまでの話し合いをふりかえって、意見・提案をまとめよう	

【ワークショップについて】

ワークショップって、こんな感じ・・・

グループ検討では、ポストイットを使った「意見カード」を作ることで個人意見を吸い上げ、KJ法※やシールゲーム※等の手法を用いて意見を集約します。

意見カードを模造紙に貼り、わかりやすく整理します。各回の最後には、模造紙を使って参加者全員で検討した内容を発表しあいます。



- *KJ法：類似する意見をグループ化しながら一つの方向性を導き出す方法。
- *シールゲーム：シールを使った投票を行い優先順位決定する方法。

- 楽しく、積極的に参加しましょう。
- テーマにそってお話ししましょう。
- いいと思った意見をほめ合いましょう。



【ワークショップ・メンバー(全3回)】

グループ	氏 名	学 校
A	大場 駿平	迫桜
	小野寺 蓮	一迫商業
	川村 愛	迫桜
	佐々木 那智	岩ヶ崎
	鈴木 愛	一迫商業
	千葉 遙輝	築館
B	鹿野 美幸姫	一迫商業
	菅原 優斗	岩ヶ崎
	鈴木 一心	迫桜
	鈴木 龍之介	一迫商業
	千葉 望陽	岩ヶ崎

A グループ

わたしたちが思う栗原市

★まちのおすすめ、自慢など

	おすすめスポット・まちの自慢など	直したいところ・こと
道路整備	☐ 昔よりも道路が増えた	☐ 歩道整備 ☐ 道路線 ☐ 自転車が通りにくい場所がある
交通	☐ 栗原市民バス・・路線で(1 台のバス) 小学生以下無料、中高生¥100、一般 ¥200 ☐ タクシー券 1 地域 1 台 ¥500 月 8 回まで	☐ 交通手段が限られている 例)バスの運行数が少ない ☐ バスの本数が少ない ☐ 交通網が少ない ☐ 商店街・交通網が 1 点に集中 ☐ 交通安全施設(カーブミラー)
観光	☐ (観光スポット)栗駒山、マインパーク ☐ 栗駒山 白馬、紅葉 全国色々なところの人たちが登山に来る ☐ 世界谷地 ☐ 伊豆沼のハスの花	☐ すぐに思いつく観光地が少ない
イベント	☐ イベントがたくさんある ☐ 他の地域とは変わった祭り 例)裸たるみこし	☐ イベントが多いけど人が少ない
地域・人々	☐ 地域の方が見守ってくれている ☐ 自慢 やさしい人が多い ☐ 地域の人優しい ☐ 近所のかかわりがたくさんある	☐ 若者が少ない
教育	☐ 学校の給食費無料 ☐ 教育環境が整っている ☐ 先生が優しい	☐ 教育施設が少なく、進学先が限られている ☐ 若い先生が少ない ☐ 部活の面か学校なのかハッキリしてほしい(活動資金等)

	おすすめスポット・まちの自慢など	直したいところ・こと
医療	☐ 子育て支援が十分にある ☐ 高校生以下は医療費が無料 ☐ 高校生まで医療費無料	☐ 病院が少ない、遠い ☐ 高卒後、就職してない人の医療はどうなっているのか
お店		☐ 店が少ない ☐ いろんなお店が無くなる、閉店 ☐ お店が少ない ☐ 商業施設が少ない
自然	☐ 自然をたくさん感じることができる ☐ 自慢 自然がたくさん ☐ 自然が豊か ☐ お魚がおいしい ☐ 空気おいしい！！ ☐ 白鳥が来る	☐ クマが多い ☐ （伊豆沼）内沼で外来種が増えた
その他	☐ 農業に適している土地 ☐ 子どもが活発	☐ 建物の空き家や劣化が多い ☐ 少子高齢化県内 3 位

未来の“栗原”づくりに向けて

大事にしたいまちづくり分野

【観光】

【イベント】

【お店】

実現したい将来のまちの姿

Let's go enjoy !
毎日ねじってふくよかに～
Wel 米な町

★取組のアイデア（まとめ）

取組分野	アイデアなど
【観光】	▶ 栗駒山にロープウェイ ・自然の景色を楽しむ ・もっと簡単に登山できるように ▶ マインパークに活気を戻す ▶ 学校が観光スポット(虹が見えるとか窓からの景色が良い) ▶ 新しい観光地、特産品を作る→米を使ったお酒やしんこもち以外の新しいもちを開発する→新しい観光地を見つけるために栗駒山の探検チームをつくる ▶ くりでんを「新」くりでんとして復活させる→栗原市ならではのもので栗駒山や伊豆沼・内沼を楽しむことができる ▶ 栗原でしか体験できないことを実施する ▶ 季節ごとに観光地が変わるツアーを実施する ▶ パツと思いつける観光地にする、栗原市外の人にも来てもらう観光地にする ▶ 新たな観光をつくる

取組分野	アイデアなど
【イベント】	▶ 若い人を呼び込むようなイベント→著名人(アイドルや芸能人)などが舞台発表できるような巨大なステージをつくったり、握手会の会場として要請する 例:ドリームパル(若柳) ▶ 「米」を活かしたイベントを考える ▶ 若者を呼び込めるようなイベントや施設の建設をする ▶ 有名人に栗原の魅力を伝えてもらうイベントを実施する ▶ たくさんの人が来てくれるイベントを実施する ▶ キャラクターが登場するようなイベント
【お店】	▶ 高校からお店を出す ▶ 高校のアピール ・こんな系列がある ・この部活が強い etc. ▶ 使わなくなった施設を再利用し、若者に人気な店を出す ▶ 若い人が来てくれる店を開く ▶ マクドナルド・サーティワン・ミスド・映画館を設立する

★アイデアの実現に向けたわたしたちの取組

観光まちづくり

自分自身	家族や仲間	地域	学校
▶ 栗駒山やマインパークで野外ライブをする(盛り上げる) ▶ 地域の人に声かけをする ▶ いろんな観光地を調べる、課題を見つける ▶ 『お金をかけても行きたい』と思える案を考える ▶ 全国のスポットを調べる	▶ 課題や提案を発信してもらう	▶ 地域の伝統文化を伝えるためのポスターを作成する ▶ 季節ごとにおすすめする観光地をまとめたパンフレットを作成する ▶ 観光地を保護する ▶ テーマパークを建設。景品を準備 ▶ 独自のスポットをつくる・保護する	▶ 観光ガイド作成 ▶ 学校と市の連携(PR)

👉 イベントの充実

自分自身	家族や仲間	地域	学校
▶ 自分が出演する ▶ 若い人を呼び込むにはどんなイベントや、施設を建てたらよいかインターネットで調べる ▶ もっと人が来られるための課題を見つける ▶ 今人気のキャラクターなどを調べる	▶ もっとイベントに参加	▶ 建築業の皆さんに協力を要請し、ステージなど新しい施設をつくってもらう。 ▶ 栗原市内だけでは厳しいかもしれないため、県内や全国に呼び掛ける ▶ 市内の子ども会を集めて親子が楽しめるようなイベントを開催する 例:ポッチャ大会、市内子ども会合同栗駒山キャンプ ▶ お米を活かしたイベント企画など ・お米の香水、バスボム ・銘柄当て きき米 ・もちの早つき競争 ・米とばし ▶ 伊豆沼で鳥人間 ▶ スワンボートはやこぎ大会 ▶ イベントや施設を建てるための土地や建てるためにかかるお金(募金)を集める ▶ 若い人を呼び込めるようなイベントを企画・調査・メディアに取り上げ、有名人も一緒に呼ぶ ▶ 栗原・宮城・アニメのキャラクターの着ぐるみを準備	▶ イベントスタッフのボランティア ▶ 市内高校合同サバイバルゲーム →栗原市内を使い、勝利したチームに米1年分をプレゼント 弾を米として使用する ▶ グッズ開発 ▶ 総文祭の規模拡大(全校フェスなど)

お店の充実

自分自身	家族や仲間	地域	学校
▶ 築館高校の生徒総会の題として提案し、料理研究部でつくってもらうメニューや特産品何を使うかについて全校生徒に考えてもらう ▶ 高校の先生に相談し、実施できるか話し合う ▶ 今の若い人が何に興味があるか調べる ▶ 予算を調べる	▶ 課題や提案を発信してもらう	▶ 若手トレンドを生み出すメディアに取り上げてもらう ▶ 予算・アルバイト・正規雇用を把握	▶ 高校の料理部がつくったメニューの案を給食センターに機会を増やして提出したり、栗原市 SNS アカウントで作り方や材料を載せる ▶ 料理部でグルメ開発 ▶ 学校と地域のお店とコラボしてみる ▶ 高校がお店を出すという企画に協力してくれる人を探す

わたしたちが思う栗原市

★まちのおすすめ、自慢など

	おすすめスポット・まちの自慢など	直したいところ・こと
おすすめスポット	□新しい店の営業 □六日町通り商店街 レトロな雰囲気のお店が多くておすすめ。お客さんとお店の方の距離が近く、地域のあたたかさを感じられる □判官森 源義経の胴塚とされる五輪塔があり、歴史が好きな人におすすめ □おすすめスポットは伊豆沼。国内で見ても有数の観光スポット □こもれびの森→普段見れない動物が見れる	□商店街では後継者が不足している
イベント	□地域ごとの伝統のあるお祭り □学生がボランティアで祭りを手伝うなど、地域が一丸となって参加している	□花火大会で灯籠を流してほしい □ねじりほんによを前のに戻してほしい
医療福祉	□医療福祉関係がとても進んでいる。子どもの医療費がタダのところなど □18歳以下は医療費が無料。15歳以下は予防接種が無料	□高齢者の数に対して人手が足りていない
自然	□豊かな自然 栗駒山、伊豆沼 □四季折々の自然が楽しめる □迫川の土手 いろんな生き物がいる □山王公園や中央公園など自然を活かした公園が多い	□公園の遊具が少ない □人通りの少ない場所でのゴミのポイ捨てがある □草木が伸びっぱなしになっている公園がある(毎年開放しているのに、祭りやイベントがない時期は特に)
まちの課題		□街灯が少なく、真っ暗な道が多い □空き家、空き店舗が増えている □バスの本数が少ない □病院までの距離が遠い所もある □少子高齢化で農業者の人口が減る

未来の“栗原”づくりに向けて

今後のまちづくりで大事にしたい分野

【おすすめスポット】

【町の課題】

【自然】

実現したい将来のまちの姿

心を1つに、一心に栗原の魅力を高め
理想の町へ

★取組のアイデア（まとめ）

取組分野	アイデアなど
【おすすめ スポット】	▶ 若者の来客数減少 ▶ 歴史マップ ▶ 栗駒山ツアー ▶ ブラックバス ▶ 栗駒山などの観光地をまわるツアーをする ▶ 歴史ある商店街を守り続けるために、またいろんな人に知ってもらうために PR 活動をする
【まちの課題】	▶ 街灯の設置 ▶ 住宅地に街灯の設置をする ▶ 栗原市の街灯を増やすため、募金活動をする ▶ 空き店舗を減らす ▶ 空き家を企業の寮にする ▶ 若い人が来たがる店(マック、イオンなど)を建設する ▶ 交通網の発展 ▶ 交通網の不便さを減らすために公共交通機関を増やす ▶ 少子化対策をする ▶ 自衛官

取組分野	アイデアなど
【自然】	▶ 豊かな自然を守る、自然環境の保全をする ▶ 地域でのゴミ拾いの活動をする ▶ 太陽光パネル、風力設置しない ▶ 子供が遊べる場所を増やす ▶ 自然ツアーを企画 (ゴミのポイ捨てが多い場所の)清掃ボランティアをする ▶ 景観を守るために草刈り、ゴミ拾いといったボランティアをする ▶ 栗駒山を(魅力で)日本一の山にする

★アイデアの実現に向けたわたしたちの取組

おすすめスポットづくり

自分自身	家族や仲間	地域
▶ 地元だからこそおすすめできる場所や体験を提案する ▶ SNS(インスタやXなど)を駆使し、色々なスポットの日常の様子を広める	▶ 学生にやさしい店を共有する掲示場、ポスターを作る ▶ 仲間に魅力を伝える ▶ 地元だからこそおすすめできる場所や体験を提案する ▶ 皆で商店街に行ったり、知り合いの伝手で商店街の魅力を伝え続ける	▶ 若者と歴史に詳しい人が一緒になって歴史を伝える、作る ▶ 地域の企業にツアー企画を協力してもらう ▶ 商店街ツアーなどをする ▶ 地域団体と協力し、駆除ボックスの設置 ▶ 地域の企業にツアー企画を協力してもらう(栗原でしかできない体験を)→ワカサギ釣り ▶ 地域と商店街が手を取り合って商店街ツアーなどをする

まちの課題を解決していく

自分自身	家族や仲間	地域
▶ どこに無くて市民(自分達)が困っているのかを考えたり、聞いたりする(まずは把握する) ▶ 色々な人に声を掛け、街灯の必要性などを促し募金してもらう。また自分自身も積極的に募金をする。 ▶ 他の市と栗原市を比較して何が必要で違うか考える(見つける?) ▶ 他の市と栗原市を比較 何が必要で違うか考える ▶ 自分達のバスが来て欲しいという時間帯など、リストを作ってみる ▶ 少子化対策について調べる	▶ 通学する時の暗く危険な場所を調べる ▶ どこに無くて市民(自分達)が困っているのかを考えたり、聞いたりする(まずは把握する) ▶ 募金をしてもらうように促す ▶ 他の市と栗原市を比較して何が必要で何が違うか考える(見つける) ▶ 自分達のバスが来て欲しいという時間帯など、リストを作ってみる ▶ 少子化対策の相談にのってもらう	▶ 募金活動 ▶ 地域全体で声を掛け合い、また自分たちからも募金活動をする ▶ 職と住居を提供 ▶ 栗原市で人手が不足している企業の寮に、市外から働きたい人を募る(空き家も減って人手不足も解消できる) ▶ 自分達のバスが来て欲しいという時間帯など、リストを作ってみる ▶ 栗原に大学を建設。栗原の人たちの夢を叶える機会を設ける(職業体験)

自然を守る

自分自身	家族や仲間	地域
▶ 積極的に活動に参加する。イベント時だけでなく、見かけたら拾うようにする。 ▶ 「ポイ捨てを減らそう、自然を守っていこう」というポスターをつくる ▶ 署名活動意見書提出 ▶ 古くなっている遊具を見かけたら知らせ、安全に遊ぶことができるように ▶ ツアーを宣伝するポスターを作成する ▶ 参加する ▶ 「ポイ捨てを減らそう、自然を守っていこう」というポスターを作る ▶ そういうボランティアなどがあれば、積極的に参加したり、自分自身の行動で周りの人達に気付いてもらう	▶ 清掃ボランティアに参加する ▶ 子どもが安全に遊べるように、見守りをする。昔の遊具などの危険がないかたしかめて遊ぶようにする ▶ 「ポイ捨てを減らそう、自然を守っていこう」というポスターを作る ▶ 家族皆で、学校の人たちでボランティアをする	▶ 地域一丸となって行う意識をもってもらう ▶ 定期的なゴミ拾いの活動を行う。活動の呼びかけを行う ▶ ジオパークを使用し、観光客に栗原の自然を知ってもらう ▶ 観光バスなどを使用する ▶ 地域でポイ捨てを減らせるよう呼びかけを行う ▶ 地域一丸となって守っていくという意識を持ってもらう ▶ 地域住民全体でボランティア活動を行う

毎日ねじってふくよかに！ Wel米（ウエルコメ）なまち・栗原



Let's go enjoy!

一迫商業高校：鈴木 愛、小野寺 蓮
迫桜高校：川村 愛、大場 駿平
岩ヶ崎高校：佐々木 那智
築館高校：千葉 遥輝

コンセプト：Wel-Come（ウエル米）

Wel Come

Welcome（歓迎）× 米（Kome）

栗原自慢の「お米」と、外からの人を歓迎する「ウェルカム」を掛け合わせました。

市民も、訪れる人も。みんなが笑顔で、心豊かになれるまちへ。

栗原の魅力



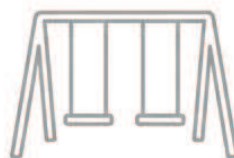
栗駒山の紅葉

伊豆沼のハス



子育て・教育支援

私たちが感じる課題



若者の遊ぶ場所がない

交通が不便



少子高齢化
県内ワースト3位

魅力はあるのに、もったいない。

観光：神様の絨毯を、誰でも。

栗駒山へのロープウェイ設置

- 神の絨毯：色彩豊かな日本屈指の紅葉を、もっと身近に。
- バリアフリー：登山が難しい小さな子供や高齢者も絶景を楽しめる。
- 安心安全：クマに遭遇せずに紅葉狩りが可能。



お店：高校生が主役の空間づくり

ないなら、作ろう。

- 空き家活用：使わなくなった施設を、若者が集まるカフェやショップへ。
- 商品開発：高校の料理研究部が地元の特産品でメニューを開発。
- 地元コラボ：スターバックスがなくても、私たちオリジナルの居場所を創造する。

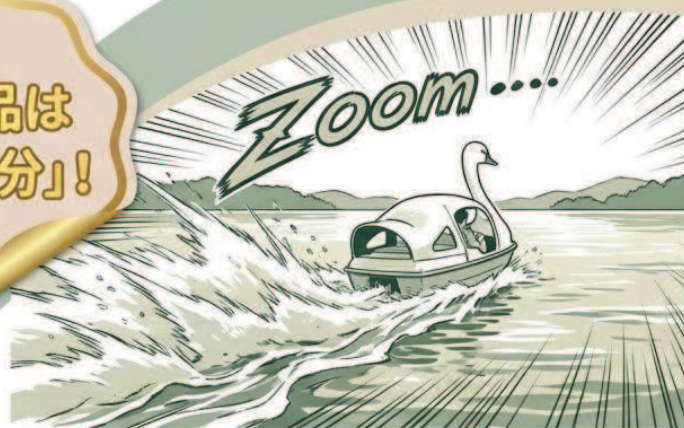


イベント：若者を呼ぶインパクト！



Event 1：栗原サバイバルゲーム

優勝賞品は
「お米1年分」!



Event 2: 伊豆沼スワンボート早漕ぎ大会

グッズ：お米の香水「HITOMEBORE」

Scent of Rice, Scent of Love.



「食べる」魅力を「香る」ライフスタイルへ。
海外観光客へアピール：「一目惚れ（Love at first sight）」というロマンチックなストーリー。
清潔感のある香りを、栗原の新しいお土産に。



ずっと住み続けたいまちへ

課題を「自分ごと」に。
今いる市民も、外からの人も、みんなが笑顔でいられる田舎まち。

Wel米（ウェルコメ）な栗原市と一緒に！



毎日ねじってふくよかに。
笑顔が集まる「Wel米」な栗原へ。

ご清聴ありがとうございました。

Copyright © 2019 Wel Rice Co., Ltd. All Rights Reserved.

心を1つに、未来の栗原へ

若者が描く「理想のまちづくり」プロジェクト



鈴木一心（迫桜高校） 鹿野美幸姫（一迫商業高校） 鈴木龍之介（一迫商業高校）
菅原優斗（岩ヶ崎高校） 千葉望陽（岩ヶ崎高校）

私たちのビジョン

**「心を1つに、一心に
栗原の魅力を高め、
理想のまちへ」**

私たち若者は、このまちを愛し、
未来を真剣に考えています。



私たちが誇る「栗原の宝」



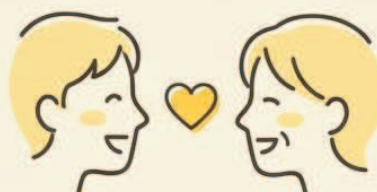
栗駒山・伊豆沼



六日町通り商店街



18歳以下医療費無料



人のあたたかさ

豊かな自然と、子育てに優しい制度、そして何より「人のつながり」。

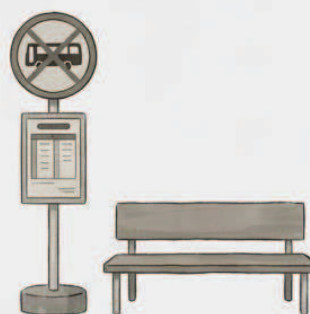
まちに見え隠れする「影」



街灯が少なく、夜道が暗い



空き家・空き店舗の増加



バスの本数が少ない

不安や不便さが、まちの活気を奪っています。

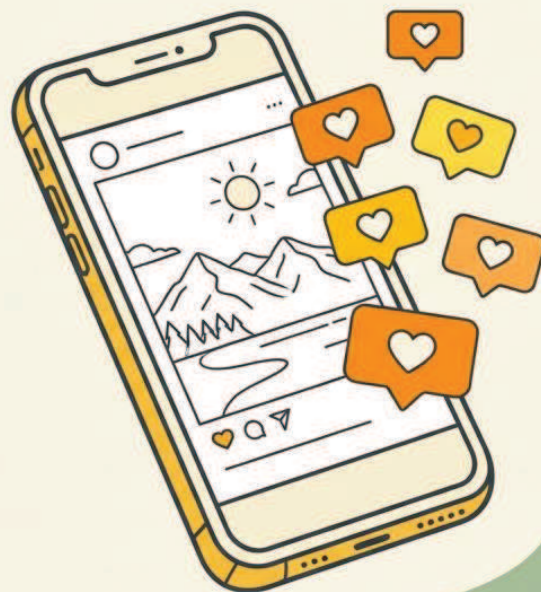
作戦① 魅力の「再発見」と「発信」

若者の視点 × SNSの力

- 「映え」スポット発信
地元民しか知らない「隠れた名所」を
インスタやXで紹介。
- 体験をシェア
栗駒山ツアーやワカサギ釣りの動画発信。



市外の人に知ってもらい、
観光客・移住者を増やす。



作戦② まちの「不便」を「希望」に



街灯を増やす

市民・企業への募金活動
＋ 暗い道の実地調査。



空き家・空き店舗の活用

企業の「寮」として活用（人手不足解消）。
若者の「カフェ」や「起業」の場へ。



交通の改善

高校生が利用したい時間を
リスト化し、市へ提案。

作戦③ 宝物である「自然」を守る

自然を守ることは、私たちの生活と観光資源を守ること。

●清掃活動

定期的なゴミ拾いボランティア。

●学ぶ・広める

ジオパークを活用した
自然学習ツアー。



実現への3ステップ

1. 自分自身

SNS発信、ゴミ拾いなど、
今すぐできることから。



2. 家族・仲間

友達や家族を誘って、
活動の輪を広げる。



3. 地域全体

企業・行政と連携し、
大きな成果へ。



若者の力を、信じてください。

一緒に、日本一魅力的な栗原市をつくりましょう。

私たちは今日から行動します。皆さんも共に未来をつくりましょう。



ご清聴ありがとうございました

第 3 次栗原市総合計画策定に係る事業報告

総合計画に係る各分野別意見交換会を開催

栗原市では現在、今後 10 年のまちづくりの指針となる第 3 次栗原市総合計画の策定を進めています。

将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるためには、行政だけでなく、地域や各分野の最前線で活動されている団体の皆様と、現状や課題認識を共有し、共に進むべき方向性を検討することが重要であると考えています。

そこで、同じ分野で活動されている諸団体の皆様にお集まりいただき、日頃の活動を通じて感じておられる地域や分野の現状、近年の変化、今後の展望について意見を交わす分野別意見交換会を開催しました。

本意見交換会は、特定の団体からの要望をお伺いする場ではなく、皆様の視点や経験を共有いただきながら、分野全体としての課題や可能性を整理することを目的としています。

開催日時 令和 8 年 1 月 29 日（木） 開催場所 栗原市役所 2 階 205 会議室

意見交換のテーマ

- ・ 近年における地域・分野の変化について
- ・ 課題の背景や今後 5～10 年を見据えた分野・地域の展望について
- ・ まち全体や市民生活への影響や今後の方向性について
- ・ 今後のまちづくりにおける行政と団体等の役割分担や連携の可能性について

参加団体・参加者

当日は、市民活動、福祉・医療、商工・経済、農業、観光など、多様な分野から 20 団体・組織の代表者の皆様にご参加いただきました。

高清水地区コミュニティ推進協議会
一迫姫松地区コミュニティ推進協議会
一般社団法人はなやまネットワーク
サポートセンターころんぶす西館
グループホームころんぶす鶴まち苑
宮城県ケアマネジャー協会栗原支部
栗原ブロック商工会連絡協議会



栗原市企業連絡協議会
新みやぎ農業協同組合栗っこ青年部
新みやぎ農業協同組合肥育牛部会栗っこ支部
有限会社耕佑
一般社団法人栗原市観光物産協会
登米栗原地区ホテル旅館生活衛生同業組合
(敬称略・順不同)

意見交換の内容

共通する課題認識

各分野に共通する構造的な課題として、高齢化・担い手不足・生活機能の低下が挙げられました。特に以下の点が複数の分野から指摘されました。

① 人口減少と担い手不足

区長・民生委員など地域役職への負担集中
ケアマネジャーや福祉人材の絶対的不足と処遇課題
農業後継者の不在と条件不利地の維持困難
商工業における事業承継問題と若者流出

② 生活機能の弱体化

公共交通不足による移動困難者の増加
買い物弱者への支援体制不足
独居高齢者や老障世帯の孤立と実態把握の困難
山間部における訪問介護の採算悪化とサービス格差拡大

③ 経営環境の厳しさ

資材・飼料・燃料費の高騰による経営圧迫
補助金制度の硬直性と実態とのミスマッチ
初期投資の負担と回収期間の長期化
産地競争力の弱さとブランド力不足

④ 情報発信と連携体制の不足

地元企業や地域資源の魅力が十分に伝わっていない
市内団体間の横断的議論や広域連携が不十分
観光戦略を主導する組織や人材の不在
SNS 活用や物語化による発信力の弱さ

⑤ 観光の通過型構造

観光資源はあるが滞在化や消費拡大につながっていない
宿泊・飲食・二次交通の機能不全



夜間の移動手段不足で滞在拡大が困難
イベントと宿泊の連動が弱い
各分野から出された前向きな方向性

一方で、課題を乗り越えるための具体的な方向性や可能性についても、多くの意見が交わされました。

市民活動・コミュニティ分野

行政区再編や役割の再整理による運営効率化
祭りや自主事業、指定管理受託など地域主体の持続可能性の模索
多様な人材登用（女性等）による新しい地域運営モデルの構築

福祉・医療分野

施設巡回型健診車の導入や受診支援体制の整備
地域交流事業による顔の見える関係づくり
小規模単位での見守り強化と住民主体の支え合い再構築

商工・経済分野

くりこま高原駅周辺の戦略的整備と拠点化
地元企業の魅力発信強化と若者との接点づくり
ケアマネジャーなど福祉人材の処遇改善推進

農業分野

学校給食や地元スーパーへの積極活用による地産地消の拡大
外国人材受入体制の整備と通勤バス等の交通支援強化
地元ブランド確立への戦略策定と市民への認知・誇り醸成

観光・交流分野

高付加価値化や体験型観光の創出
広域連携による周遊モデルの構築
発信力ある人材との連携促進と専門家を交えた戦略的議論の場創出
総合計画への反映を求める主な意見・要望

参加者からは、今後の総合計画策定に向けて、以下のような具体的な要望が出されました。

【人材・担い手確保】

担い手確保を最重点施策に明記
地域キーパーソンの役割明確化と支援強化
集落支援員制度の実効性向上
子ども・若者への投資を最優先施策に

【生活支援・福祉】



山間部訪問介護への独自支援策
支援が届きにくい層の実態把握と調査強化
障害者健診の巡回実施と費用減免
生活支援コーディネーターの増員

【産業・雇用】

事業承継支援制度の具体化と拡充
実態に即した補助金配分への見直し
飼料高騰等への直接的支援強化
若者定着に向けた雇用創出策強化

【観光・交流】

観光客数だけでなく消費額重視への転換
宿泊・交通・飲食の一体的整備
広域連携を前提とした観光戦略策定
実証実験型事業に使える予算枠創設

【拠点整備・交流促進】

くりこま高原駅周辺の戦略的整備
人が集う公園やアリーナ整備
子どもの遊び場整備
基幹病院機能維持への支援明記



【住民参画・柔軟な制度運用】

15歳以上対象の全住民調査による世代別ニーズの可視化
補助金や交付金の柔軟な運用拡充
挑戦を支える実験的予算の確保
失敗を許容する仕組みづくり

まとめ

今回の意見交換会では、各分野の最前線で活動される皆様から、現場の実態に基づいた貴重なご意見を多数いただきました。

「人を残す・呼ぶ・支える」という視点を柱に、担い手確保、産地力強化、地元循環の拡大、資源を価値に変える仕組みづくりなど、分野を横断した実効性ある施策展開が求められています。

また、従来型の枠組みにとらわれず、自助と公助を組み合わせた新しい地域運営モデルや、地域特性に応じた具体策を総合計画へ位置付けることの重要性が共有されました。

市では、今回いただいたご意見を踏まえ、将来にわたり持続可能なまちづくりの実現に向けて、第3次栗原市総合計画の策定を進めてまいります。

ご参加いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

令和8年1月29日開催 第3次栗原市総合計画策定に係る分野別意見交換会 各分野における課題、要望等まとめ					
項目	市民活動・NP0・ボランティア団体	福祉・医療関係団体	商工会・経済団体	農業団体	観光・交流・関係人口
まとめ	各地区に共通するのは、高齢化・担い手不足・生活機能低下という構造的課題である。一方で、祭りや自主事業、指定管理受託など、地域主体で持続可能性を模索する動きも見られる。今後は、従来型の行政区運営を前提とするだけでなく、役割の再整理や制度の柔軟化を図りながら、「自助と公助を組み合わせた新しい地域運営モデル」を総合計画に具体的に位置付けることが求められている。	独居高齢者や老障世帯、障害者など支援が届きにくい層の存在が顕在化している。特に山間部では訪問介護の採算悪化によりサービス格差が拡大し、制度外ニーズが現場へ集中している。加えて、健康診断未受診や精神科医療の不足など、基盤的な医療アクセスにも課題がある。今後は、実態把握の強化を出発点に、連携体制の拡充、独自財政支援、巡回型サービスの導入など、地域特性に応じた具体策を総合計画へ位置付け、「弱者に優しいまちづくり」を柱として推進することが求められる。	人材不足と若者流出を軸に、事業承継問題、福祉人材の処遇課題、生活機能の縮小など、地域の持続性に関わる課題が共通して示された。特に雇用の魅力不足と地元定着の弱さは、産業・福祉の双方に影響を及ぼしている。一方で、駅周辺整備や観光強化、企業の魅力発信、福祉処遇改善など、具体的な方向性も示された。今後の総合計画では、「人を残す・呼ぶ・支える」という視点を柱に、雇用・福祉・拠点整備を横断的に組み合わせた実効性ある施策展開が求められる。	担い手不足と高齢化、経営コストの上昇、産地競争力の弱さが重層的な課題となっている。特に条件不利地の維持や後継者不在による縮小は今後10年で加速する懸念がある。一方で、生産者間の横断的連携やブランド再構築、地産地消の推進、外国人材の活用など、前向きな方向性も示された。今後の総合計画では、「担い手確保」「産地力強化」「地元循環の拡大」を柱に、実態に即した財政支援と生活環境整備を組み合わせ、持続可能な地域農業モデルを構築していくことが求められる。	観光資源自体は一定程度存在するものの、滞在化や消費拡大につながらず、通過型観光にとどまっていることが最大の課題である。加えて、夜間交通や飲食機能の不足、戦略を主導する組織や人材の不在が、観光の発展を阻んでいる。今後は、高付加価値化や体験型観光の創出、広域連携による周遊モデルの構築、情報発信の強化と挑戦を支える予算確保を柱に、「資源を価値に変える仕組み」を計画に位置付けることが求められる。
共通する主な課題	① 担い手不足と高齢化の進行 ・高齢化率上昇、若年層の参加が減少 ・役員固定化で負担が一部に集中 ・行事参加者が年々減少傾向 ・後継者育成の仕組みが未整備 ② 空き家・廃校など資産活用の課題 ・空き家率上昇、管理困難な住宅増加 ・廃校跡地の活用方針が不透明 ・耐震・解体費など財政負担大 ・維持管理の担い手確保が難しい ③ 交通・買い物など生活機能の弱体化 ・公共交通不足で移動困難者増加 ・買い物弱者への支援体制不足 ・デマンド交通の財源・運営課題 ・高齢単身世帯の孤立が進行 ④ コミュニティ運営体制の限界 ・区長・民生委員に責任集中 ・役割分担が曖昧で負担過重 ・行政区再編の必要性が顕在化 ・モチベーション維持が困難 ⑤ 財源・制度運用の制約 ・補助金用途制限で柔軟性不足 ・集落支援員経費の使途が限定的 ・自主財源確保が難しい地区も ・制度説明や運用方針が不明確	① 在宅生活を支える訪問支援の空白 ・山間部で訪問介護が採算合わず撤退 ・移動時間は報酬対象外で負担増大 ・ヘルパー不足と事業所倒産が増加 ・独居高齢者が支援難民化する懸念 ② 独居・老障世帯の孤立と把握困難 ・高齢親と障害子の老障世帯が増加 ・困り事を自覚できないケース多数 ・地域の見守り機能が弱体化傾向 ・実態把握と初期発見が不十分 ③ 業務範囲を超える生活支援負担 ・ごみ出しや害獣対応まで相談集中 ・生活全般の困り事が事業所へ集中 ・制度外ニーズへの対応に苦慮 ・関係者の負担感が増大 ④ 障害者の健康管理・受診機会不足 ・健診通知が理解できず未受診多数 ・経済的理由で健診回避する実態 ・会場での対応困難さが障壁に ・重症化して初めて発見される例 ⑤ 地域のつながりと担い手の減少 ・山間部で人材不足が深刻化 ・民生委員や区長の負担増大 ・住民同士の助け合いが縮小 ・制度連携はあるが網羅性不足	① 人材不足と担い手の流出 ・若年層の地元就職希望が低水準 ・後継者不在で事業承継が困難 ・Uターンが進まず人口流出継続 ・外国人雇用検討も根本解決に至らず ② 福祉人材の不足と処遇課題 ・ケアマネ資格者が現場に流出 ・処遇改善が加算方式で不安定 ・高齢ケアマネの大量退職期到来 ・市内でケアマネが絶対的に不足 ③ 地域資源・生活機能の弱体化 ・商店減少で買い物環境が悪化 ・移動販売も利用減で継続困難 ・独居高齢者の生活支援が不十分 ・山間部で支援未把握層の懸念 ④ 企業・産業の魅力発信不足 ・地元企業の強みが伝わらない ・望む仕事がないとの認識拡大 ・給与水準や労働環境に不安感 ・企業と若者の接点が希薄 ⑤ まちの求心力・滞在機能不足 ・観光客が通過型で滞在しない ・子どもの遊び場が不足 ・商業拠点が分散し集客力弱い ・駅周辺活用の方向性が未確立	① 担い手不足と高齢化の進行 ・後継者不在で廃業・規模縮小が進行 ・若者が地元就農せず都市部へ流出 ・個人経営中心で世代交代が困難 ・条件不利地は受け手なく荒廃懸念 ② 農地・施設の維持と集約の限界 ・条件の悪い農地は法人も敬遠 ・牛舎等は第三者継承が困難 ・基盤整備の有無で受け口に差 ・耕作面積は今後縮小傾向 ③ 経営不安定とコスト高騰 ・資材・飼料・燃料費が高騰 ・価格変動が大きく収入不安定 ・初期投資や回収までの期間長期 ・補助金が実態に合わない場合あり ④ 産地競争力とブランド力の弱さ ・他県産地に挟まれ価格競争激化 ・決定的な特産品が打ち出せない ・地元消費・地元流通が弱い ・市民への認知や誇り醸成が不足 ⑤ 労働力確保と環境整備の課題 ・人手不足で外国人材に依存拡大 ・送迎や交通手段不足が障壁 ・スマート農業は規模要件が高い ・導入後も活用できない事例あり	① 観光資源の活用不足と経済波及の弱さ ・栗駒山や伊豆沼は期間限定で滞在短い ・通過型観光が多く宿泊に結びつかない ・観光客数に対し消費額が伸び悩む ・資源はあるが磨き上げと連携が不足 ② 宿泊・飲食・二次交通の機能不全 ・夜間の移動手段不足で滞在拡大困難 ・宿泊施設数や客室数の把握不十分 ・周辺飲食店不足でホテルが自前対応 ・イベントと宿泊の連動が弱い ③ 連携体制と推進組織の不在 ・市内団体間の横断的議論が少ない ・広域連携は構想段階で実行弱い ・観光戦略を主導する人材が不足 ・既存会議体が十分機能していない ④ 情報発信とブランド戦略の弱さ ・SNS活用が体系化されていない ・地域資源の物語化が不十分 ・富裕層向け高付加価値戦略が未確立 ・外部視点のプロデュース力不足 ⑤ 地域内格差と挑戦環境の不足 ・地域により経済活力の差が拡大 ・過疎地での起業や出店が困難 ・新規挑戦への資金的支援不足 ・実験的事業を後押しする制度が弱い
今後の方向性として出された意見	① 行事・祭りの継続と発展 ・地域の象徴として祭りを維持 ・学生等のスポット参加促進 ・世代横断型イベントの充実 ・小規模でも継続重視の姿勢 ② 自立型・収益型モデルの推進 ・指定管理受託で雇用創出 ・移住定住促進と空き家活用 ・観光・民泊で交流人口拡大 ・「自分たちでやる」意識醸成 ③ 行政区再編・柔軟な組織づくり ・行政区合併で運営効率化 ・役職の役割整理と再定義 ・多様な人材登用（女性等） ・従来枠組みにとらわれない運営 ④ 高齢者支援と見守り強化 ・高齢単身世帯への定期交流 ・情報提供とフレイル予防 ・交通支援で社会参加促進 ・地域内の声かけ体制再構築 ⑤ 住民参画と合意形成の重視 ・15歳以上対象の全住民調査 ・高回答率による意見把握 ・世代別ニーズの可視化 ・外部人材との連携活用	① 連携体制の強化と人材拡充 ・生活支援コーディネーター増員 ・包括と社協の横断的連携強化 ・民生委員との情報共有拡充 ・困難事例の早期把握体制整備 ② 訪問支援への独自加算・助成 ・山間部への移動加算創設検討 ・便利屋利用への助成制度導入 ・地域格差是正の財政措置検討 ・総合事業での独自支援拡充 ③ 障害者向け健診体制の工夫 ・施設巡回型の健診車導入 ・受診支援の付き添い体制整備 ・低所得者への費用減免拡充 ・情報弱者への個別周知強化 ④ 地域理解と見守りの深化 ・障害や認知症への理解促進 ・地域交流事業で顔の見える関係 ・小規模単位での見守り強化 ・住民主体の支え合い再構築 ⑤ 人が集まるまちづくり推進 ・市内で楽しめる施設整備 ・子ども向け屋内遊び場検討 ・イベントで交流人口拡大 ・移住前段階の関係人口創出	① 若者定着と働く魅力向上 ・休暇と収入を両立する職場整備 ・企業の魅力発信強化と情報提供 ・高校生向け企業見学の充実 ・地元就職意識の醸成強化 ② 事業承継・企業支援の強化 ・事業承継マッチング促進 ・小規模事業者への支援拡充 ・企業間連携による人材確保 ・外国人材活用の制度整備 ③ 福祉体制と処遇改善の推進 ・ケアマネ処遇の抜本的改善 ・医療と介護の連携強化 ・包括支援センター機能充実 ・人材育成と研修体制強化 ④ 駅周辺・観光拠点の整備 ・くりこま高原駅前の拠点化 ・人が集う公園やアリーナ整備 ・滞在型観光への転換推進 ・観光資源の再発見とPR強化 ⑤ 暮らしやすさの向上 ・子どもの遊び場整備 ・買い物弱者支援の充実 ・日常生活拠点の再構築 ・移住前段階の関係人口創出	① 担い手確保とネットワーク強化 ・個人任せでなく生産者横断連携 ・品目横断の情報共有体制構築 ・法人化や共同経営の推進 ・若者が挑戦できる仕組み整備 ② 産地ブランドの再構築 ・市独自の特産品を明確化 ・地元産限定の売り方を検討 ・セット販売など付加価値創出 ・産地としての統一戦略策定 ③ 地産地消と市民理解の促進 ・学校給食への積極活用拡大 ・地元スーパーでの販売強化 ・市民向けPRや食育充実 ・地元消費を通じた支援拡大 ④ 労働力確保と生活環境改善 ・外国人材受入体制の整備 ・通勤バス等の交通支援強化 ・安定収入モデルの提示 ・働きやすい農業の発信 ⑤ 子ども・若者への投資 ・子ども支援を最優先施策に ・農業体験の継続的实施 ・地元に残る魅力的な仕事創出 ・人口減少の緩和策を重視	① 高付加価値・体験型観光の創出 ・古民家宿や特別料理で富裕層誘致 ・里山や渡り鳥を活かした物語型観光 ・季節ごとの資源を組み合わせ滞在化 ・学びや体験を重視した観光展開 ② 広域連携による滞在型モデル構築 ・近隣市町と連携し周遊ルート形成 ・宿泊を軸に複数地域で滞在促進 ・交通インフラ活用で回遊性向上 ・共同イベントや合同PRの実施 ③ 宿泊・交通・飲食の基盤整備 ・夜間交通や送迎体制の強化 ・宿泊統計と受入能力の可視化 ・地域飲食店の創業支援強化 ・イベントと宿泊の一体的計画 ④ 情報発信力と外部人材活用 ・SNSや動画活用による発信強化 ・発信力ある人材との連携促進 ・資源を価値に変える企画力育成 ・専門家を交えた戦略的議論の場創出 ⑤ 挑戦を支える実験的予算の確保 ・観光研究費的な予算枠の創設 ・数年単位で検証する事業設計 ・失敗を許容する仕組みづくり ・民間主体の挑戦を後押しする制度
総合計画に對	・地域キーパーソンの役割明確化と支援強化 ・補助金や交付金の柔軟な運用拡充 ・集落支援員制度の実効性向上 ・安心安全の仕組みを具体策で明示 ・祭り・伝統文化継承への後押し ・行政区再編や新モデル導入の後押し	・支援難民の実態把握と調査強化 ・山間部訪問介護への独自支援策 ・障害者健診の巡回実施と費用減免 ・生活支援コーディネーター増員 ・精神科医療機関の誘致検討	・若者定着に向けた雇用創出策強化 ・事業承継支援制度の具体化と拡充 ・ケアマネ等福祉人材の処遇改善推進 ・くりこま高原駅周辺の戦略的整備 ・基幹病院機能維持への支援明記	・担い手確保を最重点施策に明記 ・実態に即した補助金配分へ見直し ・飼料高騰等への直接的支援強化 ・地元ブランド確立への戦略策定 ・交通環境整備で雇用確保支援	・観光客数だけでなく消費額重視へ転換 ・宿泊・交通・飲食の一体的整備を明記 ・広域連携を前提とした観光戦略策定 ・実証実験型事業に使える予算枠創設 ・地域間格差に配慮した起業支援強化